

## ヨルダンのシマ・サミ・バホス氏がUN Women事務局長に就任

昨年9月アントニオ・グテーレス国連事務総長は、国連加盟国およびUN Women（国連女性機関）の執行理事会との協議で、ヨルダンのシマ・サミ・バホス氏をUN Women事務局長に任命しました。

今号では、シプムズィレ・ムランボ＝ヌカカ氏の後任として就任したバホス氏のプロフィールとスピーチの抄訳をご紹介します。

バホス氏は、35年以上にわたって、女性と少女、ジェンダー平等、若者のエンパワーメント、質の高い教育、貧困の緩和、包括的ガバナンスなどに草の根から国際的レベルに至る活動に取り組み、女性のエンパワーメントと権利の推進、差別と暴力への取り組み、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた、持続可能な社会経済開発の促進に関する専門知識を持ち合わせています。

直近ではバホス氏はニューヨークの国連ヨルダン政府常駐代表を務め、それ以前には、UNDP総裁補兼アラブ局長（2012～2016年）、アラブ連盟事務総長補兼社会開発部長（2008～2012年）を歴任しました。

バホス氏は昨年10月21日に開催された「国連安全保障理事会の女性、平和、安全に関する公開討論会」で、女性、平和、安全について次のように発言しています。

### ＜バホス氏スピーチの抄訳＞

女性、平和、安全に関する最新の報告書から最も顕著な2つの教訓に焦点を当ててお話しします。

第一に、女性・平和・安全保障への投資を、大幅に増やし、逆に軍事費を抑える必要性について、第二に、平和と安全のプロセスへの女性の有意義な参加をさらに支援する必要性について、です。

軍事費の抑制は、平和のための女性運動の主要な戦略目標で、北京宣言と行動綱領の主要な目的でもありました。最近では、「平等を目指す全ての世代のフォーラム」で再確認されました。そしてそれはSDG16を達成するために不可欠です。

紛争後の状況での高水準の軍事費は、新たな紛争のリスクを高めることが証明されています。また、ジェンダー平等への投資は平和の配当の見返りが高いことも分かっています。それでも、私たちは前者には過剰な支出を続

け、後者には過小投資を続けているのです。

昨年、Covid19の影響下、世界経済は3.3%縮小しましたが、世界の軍事費は2.6%増加しました。

私は防衛および安全保障部門の支出に関する意思決定への女性の参加を支援し、軍事費レベルに影響を与えるためのジェンダー予算ツールとプログラミングの使用を拡大し、市民の軍事監視を強化するために、さらに努力することを国際社会に要請します。

第二は、平和と安全のプロセスへの女性の有意義な参加です。

クォータやその他の特別な措置は、積極的な変化を加速して代表を増やすための最善のメカニズムです。紛争国および紛争後の国々における女性の議会代表は、クォータがある場合に2倍になることを示しています。

私達がどのくらいジェンダー平等を推進したり、女性に対する暴力を減らせるのか、それは女性運動の強さにかかっています。女性組織が声をあげ続けるのに十分な資金がなく、リーダーが絶えず脅威にさらされている場合、女性組織が奇跡を起こすことは期待できません。

私たちは、女性の市民社会組織の活動を支援し、女性に対する暴力を非難し、調査し、罰し、女性の市民社会活動を制約して活動と資金を削減する可能性のある国内法が見直されることを期待します。

また、国々の政府だけでなく、その地域の隣人、貿易相手国、軍事同盟国、ドナー、そして何よりもこの安全保障理事会も同じように行動を起こさなくてはなりません。

あまりにも長い間、他の分野への限られた投資とは対照的に、莫大な軍事費を目にしてきました。あまりにも長い間、私たちは女性とその権利を標的とした暴力を目の当たりにし、同時に、変化を推進できるまさにその場所から女性が疎外され排除されるのを見てきました。

今こそ「もうたくさん」と言う時です。皆様と一緒に希望をもって、前進してゆきたいと思います。



## コロナ禍における 世界の女性および少女の状況

今年10月11-12日に、国連人権理事会が開催した「社会フォーラム2021」の「コロナ感染症と戦う上での成功事例、チャレンジと教訓」の議論では、「コロナ禍により国際的には、国際貿易の崩壊、海外への出稼ぎ労働からの送金の大幅な減少などにより、貧しい国がますます貧しくなった。また、1国のなかでは、これまで差別されてきた人々、女性、貧困者、先住民、LGBTQなどへの影響が大きい」と述べています。

Journal of Family Violence (家庭内暴力) という雑誌<sup>(注)</sup>では、「ロックダウン等で家から出られないことが、世界各国で女性に対する暴力を増やしている。その結果、経済の発展を阻害し、社会危機を増加させている。これが、政府の負担を増やし、生産性を下げ、財政危機につながる。つまり、コロナによるこれまでにないDVの増加(発生数と質の過酷さ)が、間接的に経済・社会の危機につながっている」と報告しています。

女性に対する暴力、女性の健康、就業、少女の教育への影響について、報告します。

### 1. 女性に対する暴力

UN Womenによると、コロナ感染症が起こる前までは、世界平均で女性の約18%が過去1年間に夫もしくは親しいパートナーから暴力・性的暴力を受けたと言われています。しかし、コロナ禍により、2020年11月18日の段階で、暴力ヘルプラインへの電話は最大5倍に増え、ロックダウンが3か月毎に続き、更に1500万人の女性が暴力の被害者になると予測しています。

また、アルゼンチンにおける暴力相談電話はロックダウンが始まって、25%増加し、シンガポールやキプロスでは、30%増加という報告があったということです。

さらに、WHOの2020年3月報告では、「中国、米国、英国からはDVの発生数が増えたという報告があり、中国荊州市では、2020年2月1か月の女性からの夫やパートナーからの暴力の訴えが3倍に増えた」と紹介しています。

アジア開発銀行によると、コロナ禍による失業、ロックダウン、アルコール摂取過多などにより、家庭内における暴力などが増加した。例えば、モンゴルの首都ウランバートルでは、DVの相談件数が63%増加したと報告しています。

### 2. 失業—特に非正規雇用における失業の増加など

ILOの統計によりますと、世界的に2019年及び2020年に5400万人の女性が失業しましたが、就業率の低下は女性4.2%に対して男性3.0%と女性の失業率が高いのです。

また、ILOは45か国で5人に一人の女性がコロナ期間

中に失業したと報告しています。特に、日本でもそうですが、非正規労働者は急激に収入が減りました。

さらに、女性は男性に比べて、コロナ前のような収入を得られるまでの回復も男性より遅く、45か国ではコロナによる現金給付を受けたのは2020年4月で男性25%、女性19%でしたが、6月では男性65%、女性50%であったということです。

### 3. 教育

ユネスコの推定によると、多くの開発途上国では学校は休校になり、少しずつ再開し始めている国もありますが、1100万人の少女が学校に戻れないそうです。特に、低所得国の12-17才の少女が退学する確率が高いそうです。世界の国々は、1995年の北京会議以降、更に2000年のミレニアム開発目標の達成を目指して女子教育の充実を目指してきましたが、コロナ禍でその努力が瓦解しました。

### 4. 今後の動向と対応

ワクチン接種率が高い国でも、コロナ感染症が広がっている状況で、今後の動向は予測困難です。

コロナ禍で国際連携の推進に影響が出ていますが、コロナ撲滅のためには、国際連携が不可欠です。とりわけ、コロナによる女性や少女への影響を減らし、女性や少女をエンパワーするための活動の推進をUN Women新事務局長に期待します。

更に、コロナ感染症の初期に、ドイツ、台湾、ニュージーランドなど女性がトップの国のコロナ対応が評価されました。今後も、女性が多いエッセンシャルワーカーや女性リーダーが重要な役割を果たすと予測されています。

(橋本ヒロ子 理事)

注1 Amalsh Sharma and Sourav Bikash Borah: Covid-19 and Domestic Violence: an Indirect Path to Social and Economic Crisis. *Journal of Family Violence* June, 2020, 1-7p



「UN Women インド」のセカンドチャンス教育プログラムに参加した医療従事者が、「COVID-19パンデミック管理に関する看護師のための重要な上級技術講習」修了証書を見せています。写真: UN Women

## UN Women、26名の黒人女性アーティストの作品を集めた展覧会とオークション『変化への力 (A Force for Change)』を開催して黒人女性を支援

UN Womenは、「変化への力」と題する、黒人女性の作品だけを集めた史上初の国際的な展示会とオークションをニューヨークで開催しました。

2021年7月27日から31日、アゴラギャラリーで開催されたこの展覧会では、新進気鋭のアフリカ系女性アーティスト26名の作品を展示し、黒人女性の手による芸術作品が社会正義運動において変革を起こす力になることを伝え、UN Womenの立ち上げ間もない黒人女性のためのグローバルプログラムを後押ししました。「人種差別とジェンダー不平等は深くかかわり合っていて分けることができない問題であり、UN Womenの活動ではいずれも重視しています。黒人女性のためのグローバルプログラムと、その活動資金を集めるこの展覧会を通して、世界各地の黒人女性の運動や団体を支援し、互いの連携を深め、声を上げ行動する力を高めます」とUN Women事務局長は述べていました。

そして、世界的なジェンダー賃金格差と女性の作品の価値に関する啓発を目的とした取り組みとして、オークションからの収益500,000ドルのうち、50%を充て、収益



の残りの50%はアーティストに直接渡されます。さらに、アーティストたちを守るために、買い手は作品を少なくとも5年は売らないこと、再販に関してはまずアーティストに拒否権を与えること、作品が売れた場合には売値の15%をアーティストに支払うことといった条件があります。

展覧会は2022年にはジャマイカでの開催が予定されていますが、今後はビジュアル・アートにとどまらず、パフォーマンスアート（劇場、ダンス、音楽、フィルムなど）の分野にも拡大し、芸術とその産業界をとうして、これまでの社会的通年やステレオタイプから脱皮することが人種上の不公平を変えてゆく重要な道になると、主催者たちは意欲的に取り組んでいます。

なお、この展覧会について、YKK株式会社のPR誌“Neighbor”でも紹介されました。

(岩城淳子 副理事長)



©UN Women/Amanda Voisard

### 応援メッセージ

富士見中学校高等学校では1年生ではSDGsについての探究活動を行っています。私たちはSDGsの17のゴールのうち、5「ジェンダー平等を実現しよう」を選びました。そして私たちに出来ることを考え、寄付やボランティアができる団体があるか探していたところ、UN Womenに出会いました。HPには世界の女性と少女の厳しい状況について詳しく書かれていました。私たちが通っているのは中高一貫の女子校です。私たちが入学したいと思い、自分の意思で受験し、実際に授業を受けられているのは決して当たり前のことではあり

ません。学校生活を送れている日々に感謝し、女性への教育支援活動に少しでも役立ちたいと思いました。

そこで、校内放送で、ジェンダー平等を実現するために私たちができると、世界には厳しい状況におかれている女性や少女がいることを伝え、UN Womenという団体が、世界の女性や少女を助けようと募金活動を行っているの、協力したいと呼びかけました。3日間の募金活動で合計で20706円集まり、送らせていただきました。

校内での発表会では世界の女性や少女がおかれている状況、UN Womenとはどのような団体なのか

について発表しました。今後、私たちの班は、女性や少女がおかれてしまった状況の原因を調べたり、私たちができることをさらに考え、提案していきたいと思っています。

富士見高等学校1年 SDGs探究 9班  
代表 高木理央 土屋花織 橋本怜奈



## 日本協会が国連「国際ガールズデー」に オンライン・イベントを開催

国連「国際ガールズデー（10月11日）」にちなみ、10月24日、オンライン・チャリティ・イベント「学校に行きたい！学びはエンパワメントへの扉」が開催されました。

まずUN Women日本事務所の谷津都萌子様より、クイズを通して教育を学ぶ、デジタル格差を埋める教育、セカンドチャンス教育プロジェクトなどを紹介し、教育が少女たちの未来への扉を開ける第一歩であることについてお話くださいました。続いて朗読『マララ 教育のために立ち上がり、世界を変えた少女』では、元NHKアナウンサーで軽井沢朗読館館長の青木裕子さんが朗読、その後マララさんのノーベル平和賞受賞時のスピーチの動画も配信しました。「女子教育の必要性・重要性を発信するマララさんの情熱」が歯切れのよい朗読とマララさんの堂々としたスピーチとあいまって視聴者の心を揺さぶり、感動を与えたようです。「マララさんの生い立ちや、UN Women の活動がよく分かった」「戦争には簡単に投資するのに、なぜ平和には、そして教育には消極的なのか。特に世界中の為政者に聞いてほしい言葉」「パキスタンだけでなく、色々な国でこのようなことがあり、日本でも、女性蔑視は残っている状況下で、教育の大事さを認識した」等のご意見がありました。116名の方が参加されました。

(高橋克子 理事)



## オンラインUN Women国内委員会 年次会合(10月19日-21日)

今年の国内委員会 (NatCom) 会合も昨年引き続きオンラインで行われました。アニタ・パティア副事務局長が開会の挨拶を述べ、NatComが拠出金を\$4M (4.5億円) 近くに増やし、コアファンドを7%伸ばしてくれたことに感謝の意が表されました。アフガニスタン支援も成功しており、さらにキャンペーンを続けてほしいという願いがありました。

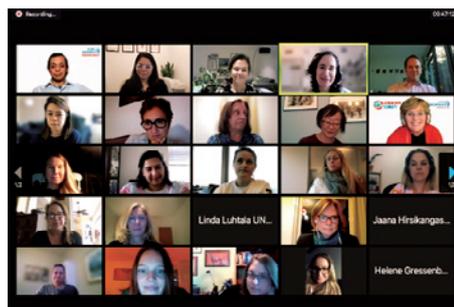
NatComの貢献に対しては、本部でNatComを担当してくれている個人・デジタル・公的寄付部門やファンドレイジングコンサルタントから詳しい説明がありました。NatComのファンドレイジングは24.5%伸びている、これを支えているのが個人寄付、特にマンスリードネーション（月極め募金）である、という報告がありました。マンスリードネーションは個人寄付の60.6%、総PSFR（民間部門ファンドレイジング）収益の43.2%を占めているという

ことです。これが基本的な潮流でありながら、今年の特徴としては日本、UK、USAに見られるように企業からの収入が27.5%伸びていることが付け加えられました。

今回の会合では本部にデジタルファンドレイジング (DF) の専門家であるサンジェイ・バルマ氏が新しく加わり、この分野に焦点が当てられました。彼によればDFの伸びは世界的に見ても顕著で、2020年には32%に達しているそうです。寄付ページの作成からウェブサイトの分析まで、具体的な例を挙げたワークショップが開かれ、NatComのDFが奨励されました。

この後、DFを利用して拠出金を増やしているドイツとアイスランドNatComの実例紹介がありました。ドイツはSOCOのプレスレットを15,000個販売して拠出金を増やしています。人道危機キャンペーンでリードを得てマンスリードナーに転換することでも成功しています。アイスランドは毎年女性に対する暴力撤廃キャンペーンを行い、100人ずつぐらいいマンスリードナーを増やしているということです。アフガニスタン支援キャンペーンでは180万円くらいの寄付を集めたという報告がありました。

(本田敏江 理事)



## 協力協定団体の活動

### 国連ウィメン日本協会 大阪

10/23 (土) にクレオ大阪東で開催された「SDGsフェスタ」と、11/20 (土) にクレオ大阪中央で開催された、年に一度の館まつり「フェスタ」に、国連ウィメン日本協会大阪としてブース出展をしました。両日ともに晴天に恵まれ、地元の名店や手作り雑貨の販売、ワークショップなどの催しが開催され、明るい雰囲気の中、私たちがイベントを楽しみながら参加させていただきました。国連ウィメンのブースにも多くの方に立ち寄っていただき、活動紹介やグッズ販売、募金活動を行うことができました。

みなさまの温かい気持ちが世界の女性と少女に届きますように。

事務局 長栄くみ子



SDGsフェスタ



クレオ大阪中央フェスタ

## 国連ウィメン日本協会 よこはま

2021年度は、コロナ禍での活動でした。初の書面決議による総会に始まり、各分会や定例の理事会のほとんどをオンラインで行ってきました。

そんな中、閉店していた当会のウィメンショップは、緊急事態宣言の解除に伴い、短い営業時間ながら10月より再開しました。

11月には、YNN主催のオンラインイベント「SDGsよこはまCITY秋～国際協力・多文化共生からのアプローチ」に参加。当ウィメンショップ店舗前からの生配信により、UN Womenや当会の紹介、ショップ商品のお勧めをPRしました。

12月には、とつか区民活動センター主催による「とつかお結び広場」に参加。当会事務局の近くにある戸塚区役所会場で、パネル展示による活動紹介を行いました。

副会長 樽谷文代



ウィメンショップ前から生配信

## 国連ウィメン日本協会 東京

11月19日に古賀政男音楽博物館けやきホールにて第31回チャリティコンサートを開催しました。ピアノに小倉茉緒、ソプラノ小澤美咲紀の新進気鋭の二人の演奏家をお迎えし、コロナ禍の閉塞状態から解放された参加者は、久しぶりのDuoコンサートを楽しみ、素晴らしい演奏に酔いしれました。また、感染症の予防措置を取りながらも会場でのバザーも開催、手作りケーキやクッキー、お馴染みのグッズを販売し、募金活動も行いました。

12月12日にはトモキヨ音楽院(上尾市)の恒例のクリスマスチャリティコンサートに参加、会場ではバザーを開かせていただきました。毎年多大のご支援をいただいている主催者の清友会様には誌面をお借りして感謝を申し上げます。

この2年間は活動も盛んでしたが、やっと活動を再開、今年度2回目のニューズレターNo.29も発行して今期の活動を終了することができました。

副会長 阿部幸子



ピアノにも歌声にもパワーがあふれたDuoコンサート

## 国連ウィメン日本協会 多摩

イベントが開催できない状況が続きましたが、やっと12月に2つのイベントに参加することができました。

12月4日(土)に昭島市内の市民活動をしている人たちが協力して作る「ウイフェスタ」に参加しグッズ販売ができました。また、12日(日)には、羽村市ゆとろぎホールで行われたチャリティーの『クリスマスコンサート』で日頃からご支援頂いている会員から寄付を頂き、グッズ販売もできました。

日常的に手作りを提供して下さる会員もいて、皆様のご厚意に感謝した1年でした。

事務局 小川裕夫



感染対策を取りながらイベントに参加しました。

## 国連ウィメン日本協会 北九州

2021年度は新型コロナウイルス感染防止に最大限気を配り、7月にバザーを、12月には講演会を開催することができました。

バザーは昨年コロナ下で実施できなかったもので、今年こそはぜひやりましょうと、北九州市立男女共同参画センターのムーブフェスタ2021の初日7月3日に、感染防止のため、参加人数及び時間制限による入替制で実施しました。参加者は延べ100名を超え、バザーの収益を上げることができました。

12月12日(日)には、NPO法人Gender Action Platform理事大崎麻子さんを講師にお迎えして、「コロナの先の未来のために～誰一人取り残さない世界を」と題して講演会を開催しました。

内閣府「コロナ下の女性への影響と課題に関する研究会」報告書や「女性活躍・男女共同参画の重点方針2022の策定に向けて」をもとにコロナ下で明らかになった問題点及び地方公共団体への期待、さらに民間企業を取り巻く国際的なビジネス環境の激変が、社会全体のジェンダー平等推進にもつながるかについてお話いただき、参加者はとても熱心に聞き入っていました。

事務局 西山陽子



12月12日の講演会の様子

## 事務局からのお知らせと報告

### ■ご寄付のお申込みについて

日本協会への寄付は毎月定額をご寄付いただく「継続寄付」(マンスリードネーション)とその都度ご寄付いただく「都度寄付」があります。いずれの寄付も税制優遇措置の対象になります。

お申込みは、国連ウィメン日本協会HPに掲載されております、こちらのページからお願い致します。

<https://www.unwomen-nc.jp/donation/#kifu>

### 「継続寄付(マンスリードネーション)」

毎月定額のご寄付を続けていただく募金方法です。毎月のご寄付は、世界の女性・少女を支援するUN Womenが継続的にプログラムを展開するうえで、なくてはならないご支援であり、世界の女性・少女に希望の未来をもたらします。一度お申込みいただければご指定のクレジットカードからの自動引き落としが可能な、インターネット決済をおすすめします。

インターネット決済では、「継続寄付」をお選びいただき、毎月の定額を1,000円、2,000円、3,000円、5,000円のいずれかを選択していただけます。

### 「都度寄付」

寄付のお申し込みを随時、その都度お受けいたします。インターネット決済の場合は「都度寄付」を選択していただき、1口1,000円からのご寄付をお願いしております。また、郵便振替もご利用いただけます。

郵便局 振替口座番号:00240-7-43928

口座名義:NPO法人国連ウィメン日本協会

### ■賛助会員募集中

事務局へご連絡いただくか、ホームページからもお申込みいただけます。

【年会費】個人 1口5,000円  
団体 1口10,000円



### ■遺贈の受付を始めました

日本協会では昨年の9月よりホームページで遺贈のご案内を始めました。

遺贈とは遺言によって財産を特定の個人や団体へ無償で寄付することですが、その手続きの流れ、相続税の優遇措置な

ど、ご理解をいただくために、パンフレットを同封させていただきます。

故人のご遺志は、国連ウィメン日本協会から毎年UN Womenに送金する拠出金に含ませていただき、UN Womenが世界で展開する女性・少女のためのプログラムの資金に活用させていただきます。

あなたが、世界の女性・少女たちに、生涯生き抜く力と夢を与え、あなたの想いが未来へとつながっていきます。

### ■クラウドファンディング

「生理の貧困が女性・少女の幸せに生きる権利を奪っています」



9月13日から10月20日までクラウドファンディングを実施し、70人+1団体から579,000円(直接振込を含む)のご寄付をいただき、目標金額50万円を達成することが出来ました。

### ■正会員団体15団体(前回掲載以降2021.12.31現在)

(公財)アジア女性交流・研究フォーラム NPO法人一冊の会 国際婦人年連絡会 堺市女性団体協議会 (公財)横浜市男女共同参画推進協会 (一財)大阪市男女共同参画のまち創生協会 群馬婦友会 国連ウィメン日本協会よこはま 国連ウィメン日本協会多摩全国友の会 (株)高島屋 (公財)イオン1%クラブ 国連ウィメン日本協会さくら 国連ウィメン日本協会東京国際ゾンタ26地区

### ■正会員個人32名(前回掲載以降2021.12.31現在)

新規入会:芳賀正明

### ■賛助会員団体11団体(前回掲載以降2021.12.31現在)

日本生活協同組合連合会政策企画部 にいがた女性会議 越谷ミズの会 (株)電通 (公財)佐賀県女性と生涯学習財団 (株)フジテレビジョン 国際ゾンタ姫路ゾンタクラブ (株)クロスメディア・ランゲージ 特定非営利活動法人ウィメンズアイ 国連ウィメン日本協会北九州 (一社)大学女性協会

### ■賛助会員個人140名(前回掲載以降2021.12.31現在)

新規入会:阿部由紀子

以上、敬称略

<認定>NPO法人国連ウィメン日本協会

事務局

〒244-0816 横浜市戸塚区上倉田町435-1

男女共同参画センター横浜内(フォーラム)

・TEL/FAX 045-869-6787

・E mail [unwomennihon@adagio.ocn.ne.jp](mailto:unwomennihon@adagio.ocn.ne.jp)

・ホームページ <https://www.unwomen-nc.jp>

●交通のご案内 JR・横浜市営地下鉄「戸塚駅」下車、徒歩7分

